

# ニューノーマル時代のITの活用に関する懇談会

---

中間論点整理

令和2年7月3日

# 「ニューノーマル時代」に向けて

## 【懇談会の趣旨】

- 新型コロナウイルスは、私たちに大きな変革を迫っている
- 特に、
  - ・ **デジタル・トランスフォーメーション**（DX）の世界的な流れを踏まえ、
  - ・ **テールリスク**（※）への準備を進めつつ、新しい日常（ニューノーマル）への移行を検討する必要
- 「ニューノーマル時代」に向けて必要なIT政策は何か

（※）テールリスク：頻繁には起こらないが、起こったら大きな被害が生じるリスク（パンデミック、大災害など）

# 「ニューノーマル時代」の姿と課題

## 【社会の仕組みはどう変わるのか】

### ○「繋がる社会」：リアル・サイバー融合による多様な新産業

- ・手軽に楽しむバーチャルサービスと感動の空間を共有するリアルサービスの相乗効果
- ・グローバリズムとローカリズムの融合、私的空間と公共空間の融合

### ○新たな競争を発生させる

- ・空間に守られた市場の開放やネットワーク経済の展開で、新たな競争が発生
- 「世界をリードする」デジタルインフラ整備が必要ではないか

## 【ライフスタイルはどう変わるのか】

### ○「広がる生活」：生き方の選択肢の広がり

- ・ワーケーション、多様な働き方、多様な遊び方、第三の空間（自宅でも職場でもない）
- ・移動の多様化、混雑の平準化で快適な移動空間、教育や医療の多様な選択肢

### ○新たな格差を発生させる

- ・デジタルデバイドの加速による新たな格差が発生（深刻化）
- 「誰もが取り残されない」デジタルミニマム整備が必要ではないか

## 【ITはどう変わるのか】

### ○デジタルインフラの概念が変わる

- ・国土のデジタルインフラ、6G（beyond 5G）、データ活用、セキュリティ技術

### ○デジタルミニマムを支える新しいシステムが生まれる

- ・人に優しいインターフェース、AI、ロボット

# どのように移行していくべきか

## 【移行四原則】

### (1) テールリスクを重視する

- ・次のテールリスクに備えて、社会と行政のサステナビリティを損なわない

### (2) 世界をリードする

- ・新たな概念のデジタルインフラを世界最高水準で整備し、世界に先駆けてニューノーマルに移行する

### (3) 誰もが取り残されない

- ・高齢者、障害者や外国人にも優しい社会「デジタルミニマム」を定義、整備し、新技術を活用しながら、誰もが取り残されないよう、全員でニューノーマルに移行する

### (4) ショックセラピー型で移行する

- ・目標時期を設定し、諸改革を同時並行で進めていくことで、ニューノーマルに移行する

# どのような政策が求められるか

## (1) DX競争を戦うための新デジタルインフラ（情報社会資本）

- ・ デジタル国土整備、モノモノ通信（IoT）の基盤整備
- ・ 5G及び6G（beyond 5G）の推進
- ・ ID基盤としてのマイナンバー及びマイナンバーカードの個人認証機能の活用促進

## (2) DX格差を防ぐためのデジタルミニマム（情報社会保障）

- ・ 高齢者、障害者や外国人にも優しいインターフェース、AI、ロボット開発支援の加速
- ・ ITリテラシー教育（リカレント教育）の推進、成果連動型（Pay for Successモデル）の活用
- ・ デジタルライフ支援制度の構築

## (3) 政府部門が先導するDX

- ・ 中央省庁完全デジタル化に向けた工程表の策定
- ・ 政府CIO機能・権限の拡充
- ・ 行政データを用いた分析に基づく政策企画・政策評価の一元的体制の構築
- ・ 統一されたID体系及びベース・レジストリに紐づく行政データの蓄積・流通及びAPIによる官民連携
- ・ 行政文書ペーパーレス化

## (4) 新たな世界に適応したIT基本法の改正

- ・ 上記（1）～（3）の戦略基盤としてのIT基本法の改正
- ・ 新しいデジタルインフラとデジタルミニマムの構築を明記
- ・ 行政データの活用の枠組み設定を明記

# 懇談会出席者一覧

## 【委員】

- ・ ロバート フェルドマン モルガン・スタンレーMUFG証券シニアアドバイザー・東京理科大学技術経営専攻教授
  - ・ 大友 浩嗣 大和ハウス工業株式会社取締役常務執行役員
  - ・ 尾上 孝雄 大阪大学理事・副学長
  - ・ 川端 一彦 サントリービジネスシステム株式会社代表取締役社長
  - ・ 杉山 健博 阪急阪神ホールディングス株式会社代表取締役社長
  - ・ 関口 和一 (株)MM総研代表取締役所長・元日本経済新聞社論説委員
  - ・ 竹沢 泰子 京都大学人文科学研究所教授
  - 竹中 平蔵 東洋大学教授・慶応義塾大学名誉教授
  - ・ 中室 牧子 慶応義塾大学教授
  - ・ 宮田 裕章 慶応義塾大学教授
  - ・ 村井 純 慶応義塾大学教授
  - ・ 山本 敬三 京都大学大学院法学研究科長
- (○印は座長)

## 【ゲストスピーカー】

- ・ 梶浦 敏範 (一社)日本サイバーセキュリティ・イノベーション委員会代表理事
- ・ 松尾 豊 東京大学教授

## 【事務局】

- 真鍋 雅史 嘉悦大学教授
  - ・ 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室
- (○印は事務局長)